

「食育推進のつどい」概要

- 1 日 時 令和6年6月19日（水曜日） 13:30～15:40
- 2 会 場 広坂合同庁舎 1階 共用大会議室
- 3 内 容 第1部 第3回北陸農政局食育活動表彰 表彰状授与式
第2部 北陸農政局長賞受賞者の活動紹介及び意見交換会
- 4 開催方法 会場からオンライン（Microsoft Teams）により配信
- 5 出席者 第3回北陸農政局食育活動表彰 北陸農政局長賞受賞者
新潟県 新潟県農業協同組合中央会
富山県 アルビス株式会社
富山県 砺波市環境保健衛生協議会専門部会
石川県 金沢大学学生チーム わこころ
北陸農政局
北陸農政局長ほか
- 6 参加者数 オンライン一般視聴回線数 68回線

7 概 要

（1）第1部 第3回北陸農政局食育活動表彰 表彰状授与式

管内（新潟県、富山県、石川県、福井県）の優れた取組を行っている食育関係者を表彰し、その活動を広く紹介することにより、北陸地域における食育活動を推進。

第1部では、第3回北陸農政局食育活動表彰において4団体に対し、川合局長から北陸農政局長賞を授与。



式辞を述べる川合局長



北陸農政局長賞受賞者記念撮影

（2）第2部 北陸農政局長賞受賞者の活動紹介及び意見交換会

第2部では、北陸農政局長賞受賞者の活動紹介及び意見交換を実施。

①活動紹介

○新潟県農業協同組合中央会(以下「JA 新潟中央会」という。)



保育園・幼稚園・認定こども園の“園児”を対象とした「作文図画コンクール応募」、「シャカシャカおにぎりづくり」、「バケツ稲づくり」の3つの活動を実施。幼少期から食育活動を進めることは、食と農のつながりを感じ、共食の大切さへの理解を期待できることから、3つの活動を通じて、米の生産から消費を体験してもらう機会を提供。今後も実施園、JA、行政と連携して活動を進めていく。

○アルビス株式会社(以下「アルビス」という。)



地域の食文化の伝承や健康をテーマに、幅広い年齢層の方が参加できる企画を10年以上前から実施。「生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進」では、富山食文化の魅力再発見キャンペーン、料理教室、高校での出前講座を実施。持続可能な食を支えるために、親子料理教室、農家体験ツアー、フードドライブなどを実施。これからは地域の方々がスーパーマーケットを介して健康な暮らしが送れるよう、継続して食育活動を行っていく。

○砺波市環境保健衛生協議会 専門部会(以下「砺波市専門部会」という。)



砺波市専門部会は、食生活改善推進員協議会、ヘルスボランティア連絡会、母子保健推進員連絡協議会の3つの団体で構成。野菜の効果に着目し、野菜を食べることによる健康づくりを行う砺波市の「となベジプロジェクト」に賛同し、「野菜料理教室の開催」、「となベジ野菜レシピ集の配布(声かけ運動)」、「野菜摂取推定量測定会」、「1歳児訪問での声かけ運動」などの活動を実施。今後も「となベジプロジェクト」の一員として、「野菜を食べよう 野菜から食べよう」を伝えていく。

○金沢大学学生チーム わこころ(以下「わこころ」という。)



私たちの身体にとっても地球環境にとってもやさしい規格外野菜スープの提供・販売活動を令和5年に開始。スープの提供を通して食品ロスの削減、食育について、もっと知って考えて行動するきっかけを作るべく令和5年10月に金沢大学内で規格外野菜を使った食堂をオープン。学生が企画から調達、調理、販売の全てを担っており、学生自身が食品の問題や現状を学びながら活動。これからも地域全体での連携を増やしながらか、食について、知って、考えて、行動する場を広げていき、私たちにとっても地球にとってもやさしい社会を実現していく。

②意見交換

Q1：アルビスでは、フードドライブで集めた食品をどのように活用しているのか。

A1(アルビス)：当社のフードドライブは、リレーフードドライブと常設型のフードドライブボックスの2つ。リレーフードドライブは毎月第1金・土・日曜日に各店舗を回りながら食品を集め、事前に届け先の予定を組んで、必要としている方に渡している。常設型のフードドライブボックスは、お客様に来店時にもってきてもらい、集まった食品は提携した団体に月に2、3回取りに来てもらっている。

Q2：健康的で長生きするには、バランスのいい食事を取ってもらうことが重要。野菜を食べてもらうためにはどうしたら良いか。

A2(砺波市専門部会)：野菜だけ食べれば良いというのではないので、例えば惣菜だと、工夫した惣菜を親子料理教室で紹介したり、となベジプロジェクトに参加している市内のスーパー、飲食店、小学校などで考えたレシピで作った惣菜商品をスーパーで販売するなどしている。

Q3：農家が野菜を作っても100%商品化にならず、半分近くが規格外になっている。わこころが学食で規格外野菜を取り扱う経緯は。

A3(わこころ)：野菜は天候などの影響でロスがでるため、そういうものをどうやったら使うことができるかを考え、規格外野菜スープの販売を始めた。学食で販売する場合、提供する食数に合わせて野菜を調達するが、私たちは逆に、調達した野菜を見て何を作るか決め、作った量に合わせて販売する野菜ファーストで営業している。

Q 4：実施園での活動において、楽しさプラスお米を食べることの良さをどのように伝えているか。

A 4 (JA 新潟中央会)：ご飯を食べることによって、園に来た時に友達と一日楽しく遊べる持久力が育まれることを教えている。また、米がどのように作られているか知らない子供たちも多くいることから、バケツ稲セットで、子供たちが園に来た時に間近に稲がどのように育っていくかを見えるようにしている。シャカシャカおにぎりづくりの取組は、同じクラスの子供たち全員で、紙コップを振って、楽しく作ることににより、自分でもできるという気持ち子供たちに持って欲しいと考えている。

Q 5：アルビスでは富山県内で色々な食育のイベントを開催されているが、石川県でも開催する機会はあるか。

A 5 (アルビス)：石川県でも開催している。ホームページでイベントを紹介しているので、機会があれば参加いただきたい。

北陸農政局：本日、皆さまから発表していただいた資料は、食育を進めるにあたり大変参考になるので、北陸農政局以外にも情報を共有していきたい。意見交換においても生産者、流通業者、消費者のそれぞれの立場から貴重なご意見をいただいたので今後の参考とさせていただきたい。また、各地で様々な取組が行われているので、こうした取組の情報発信も積極的に行っていきたい。



意見交換会の様子